



写真8 東側から見た津山城の様子

東側法面の樹木を伐採しました。

史跡津山城跡整備事業とは直接関連していませんが、津山城の東側の宮川に面した斜面の樹木の伐採を、公園緑地課の事業として実施しました。

この斜面は傾斜が急で、これまでも台風などで樹木がかなり倒されていましたが、作業用の通路の確保の関係で樹木の伐採ができなくなっていました。それが今回国と協議の結果作業道の設置が認められたため、北側の鶴山球技場から作業を開始し、平成21年度は東側斜面の2/3程度の樹木の伐採を実施しました。

明治の古写真では宮川から見上げると東側斜面に樹木はほとんどなく、三段の石垣が確認できますが(写真9)、その後、斜面の手入れがなされなくなったために樹木に覆われ、最上段の石垣さえもよく見えず、「どうにかして雑木を整理できないのか」という声をたくさんいただいております。今回の樹木伐採により、東側法面は往事の景観を取り戻すことができました。

今後も引き続き公園緑地課では城内の樹木の整理を行い、できる限り城外から見た景観の復元を行っていく予定にしています。また、城内の桜についても、樹勢の衰えたものなどを順次整理し、適切な規模での補植を検討

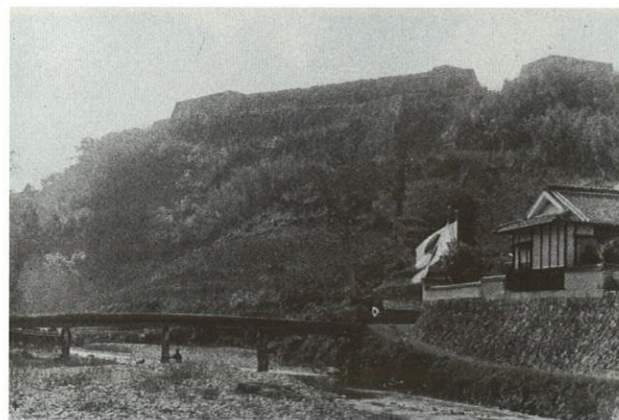


写真9 東側から見た津山城の様子(古写真)しています。

文化財課による史跡整備と公園緑地課による都市公園整備とを有効にリンクさせながら、「史跡 津山城跡」の魅力を増すように、今後も事業を進めていきます。

津山城だより No.14
TSUYAMAJODAYORI 津山市教育委員会 文化財課

発行年月日 平成22年3月25日
編集・発行 津山市教育委員会 文化財課
〒708-0824 岡山県津山市沼600-1
TEL (0868) 24-8413
印刷 廣陽本社

津山城だより

TSUYAMAJODAYORI

No.14
2010年3月

津山市教育委員会
文化財課

七番門虎口石垣を復元しました。



復元された七番門虎口(北西上空から)

平成21年度は天守曲輪のうち、直接二の丸へ出ることのできる門である「七番門」跡の整備を実施しました。

整備はまず歪みの著しい北面石垣の解体修理を実施し、その後失われていた東面石垣及び南側雁木(石段)の復元整備を実施しました。併せて七番門櫓台部分の天端面をタタキ仕上げとして、石垣内部への雨水の浸透を防止する処置を行いました。

また、切手門跡及び四脚門跡の発掘調査を行い、地下に埋もれていた築城時の石段を確認するなど、様々な情

報を得ることができました。これらの成果については、次ページ以降で詳しく紹介することにします。

また、史跡津山城跡整備事業ではありませんが、今年度は都市公園「鶴山公園」の管理の一貫として、土木部公園緑地課が東側斜面の樹木伐採事業を実施し、北西側からの景観が大きく変わりました。

少しずつではありますが、今後も着実に史跡津山城跡の整備を実施していきます。

切手門跡等の発掘調査

切手門は二の丸から本丸表鉄門へ至る間の通路を仕切る大型の櫓門です。この切手門の礎石等の残り具合や背後の階段の位置などを確認するため、昨年度に引き続き追加的な調査を行いました。

昨年度は中央を避け北及び南側の調査を行い、礎石の状況や、背後の階段の一部を確認しました。今年度は中央の現在の通路部分の調査を行いました。その結果、新たに礎石2、暗渠排水を確認することができました(写真1)。また、昨年度に一部確認していた切手門東側の雨落溝及び雁木を全体の概ね1/3程度確認できました。

新たに確認できた礎石のうち西側のものは昨年度確認できた西側礎石と同列上にあり、切手門の主柱がのる礎石と考えられます。

暗渠排水は豊島石製の「U字溝」を使用したもので、蓋には豊島石を使用せず凝灰岩製の板を置いて蓋にしていました(写真2)。これは大手側の門であり、比較的通行量が多いために豊島石の蓋では強度が不足するために、丈夫な凝灰岩製の蓋を使用したものと思われます。搦手側の裏鉄門や裏下門などでは、暗渠排水に豊島石製の蓋が用いられていました。

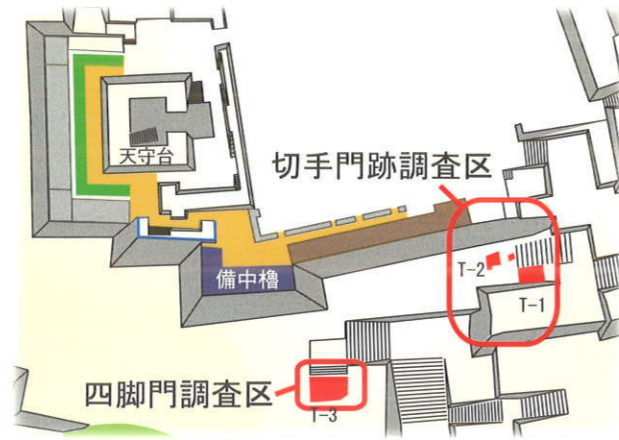


図1 調査区位置図(上が北)

また、雨落溝の水を暗渠排水に流すための接続部分も確認できました。この接続部分も、裏鉄門・裏下門は雨落溝よりも暗渠排水の方が一段低く取り付けられていましたが、切手門では雨落溝の底と暗渠排水の底はほぼ同レベルでした(写真3)。

切手門背後の石段は最下段以外の段差が70~80cmもあり、間にスロープ状の斜面を設置し、実際の段差を低くしていたものと思われます。

四脚門跡については、残念ながら近現代の地下埋設物により、大きく遺構を破壊されており、詳しい状況はよくわかりませんでした。



写真1 切手門跡全体写真(上が北 赤線:門跡礎石 青線:東側雨落溝 黄線:石段 半透明青:暗渠排水)



写真2 切手門跡暗渠排水(北から)



写真3 雨落溝と暗渠排水の接続状況(東から)

七番門跡の整備

七番門は天守曲輪から二の丸へ直接接続している門で、天守曲輪よりも一段低い位置に門を置き、その背後に3m×7m程度の狭い虎口空間を持っています。虎口は北・東面は石垣、南面は天守曲輪へ上がるための雁木になっており、西側に門が開く形になっています(写真1)。

また、この門の外側は3m近い落差を持つ石垣になっており、門から外に出る時には木製の階段のようなものを使用していたことが、記録からわかっています。『勘

定奉行日記』文化八年(1811)の記事に「七番門外橋子繕二十三匁四分」とあります。「橋子」は「梯子」であり、非常時には取り外すことのできるものであったようです。

明治以降、東面石垣と南側雁木が撤去され、虎口自体も長らく天守曲輪と同レベルまで埋め立てられていました。

平成21年度は、北面石垣を解体修理し(写真6・7)、その後東面石垣と南側雁木の復元を行いました(写真4・5)。門の標示等は平成22年度に実施します。



写真4 七番門跡整備前(西から)



写真5 七番門跡整備後(西から)



写真6 七番門跡北面石垣整備前(南から)



写真7 七番門跡北面石垣整備後(南から)